

平成 27 年度第 1 回高知県職業能力開発審議会 議事録 (概要)

1. 日 時 平成 27 年 6 月 17 日 (水)
2. 場 所 高知県共済会館 3 階「藤」
3. 出席委員 大井方子 鈴木康夫 筒井早智子 二宮久美 吉野祐一 大西孝枝
中山和恵 西岡良介 西森信明 泉井安久 川上勲夫 西山正晃
森 由枝 横山佳代子 (敬称略・順不同) (14 名)

4. 内 容

(1) 会長・副会長の選出等

- 会長に鈴木委員が選出され、副会長に吉野委員が指名される。

(2) 第 9 次高知県職業能力開発計画進捗状況報告

- 事務局から第 9 次高知県職業能力開発計画の概要説明や各種取組の進捗管理状況について説明。
- 質疑意見等

(特に委員からの意見等なし)

(3) 高等技術学校の主な取組報告

- 事務局から高等技術学校における平成 26 年度の取組実績と平成 27 年度の取組 (予定) について説明。
- 質疑意見等

(委員)

以前の審議会で高等技術学校にも女性にたくさん入校してもらいたいというような意見を出しており、それについて説明があった。リーフレットの作成はいい取組である。これまでのパンフレットでは、女性が全く出てこなかったもので、これはとても良い。

また、託児サービス、これは男女とも受けられる事業ではあるが、母子家庭の子どもさんも預けられるし、訓練を受ける小さいお子さんがいる方からすれば、とてもよいサービスである。

トイレを改修するという話があったが、トイレはとても必要。私も高知校に行く機会があるが、トイレが少なくて困っていた。これに加え、更衣室を整備することは考えてないのか。

(事務局)

更衣室については、高知校の本館のほうに女性専用の部屋があり、こちらのほうで着替えをされたり、場合によっては身だしなみを整えて帰っていただくようなことも可能なように整備している。生徒に鍵を渡しており、気がねなく利用できるようなかたちになっている。

(委員)

生活相談員の方や就職コーディネーターを配置された効果があったというふうに見受けられるので、引き続き配置をお願いしたい。

(委員)

今年度から改修していく女性専用トイレ、男性用と女性用が別々になるという意味の専用と理解してよろしいか。

現在、一般の企業において、「セクハラ」が発生する場所のひとつにトイレが上ることが多くなっている（盗撮など）。したがって、女性が男性と同じ部屋のトイレに入るのは大変抵抗がある。

今現在、本館のほうにあるトイレは、男女共同なのか。

(事務局)

しっかり分かれている。もちろん、入口も別々になっている。

(委員)

高等技術学校の充足率について、平成 26 年 53%、27 年 59%となっており、25 年度は 70%近くあったのが非常に下がっている状況。もちろん、景気回復のせいで入校希望者が少ないというのもあるが、この数字は非常に低いと言わざるを得ない。

例えば、文科省の国立大学や私大では、在籍者数が定員の 0.9 割を満たなければ、交付金や補助金が減らされていき、そして、私学の場合は 5 割以下の場合、不交付ということになる。この数字は今後どういうふうと考えていけばいいのかという整理が必要。

まずは、どの程度低いのかというあたりをもう少しきちんと知りたい。全国平均と比べてどんなものなのか教えていただきたい。もし、全国平均より低いとして、もしそれが、高知県が他の県よりも景気が悪いということであれば、本来、充足率は上がるはず。にもかかわらず、低い理由について、分析してほしい。

それから、女子が入れるようにしたというのは、どの程度効果がありそうなのかということ。

それから、前回の審議会で、年齢制限を 10 歳引き上げたが、その効果をどのように分析しているのか。

また、ほかの都道府県の年齢制限はどのように設定されているのか。年齢制限を撤廃すると、もう少し需要があるのか、見込めるのかどうかというあたりを、今後のことを見据えると教えてほしい。

(事務局)

まず、充足率。全国よりは若干悪い、全国平均はもう少し、あと1割くらいいいかなという感じで見ているが、各県かなりばらつきがある状況。首都圏、大都市圏では結構高いが、地方部は3割に満たない県があったりする。これはどうしてかという、定数が何百人という規模ではなしに、10人、20人といったような小規模で実施をされている訓練なので、その年による波が結構おきやすい。

そういう意味では先ほどの、景気が悪ければ、充足率がもっと上がるはずという話に続くところだが、実は、この施設内の普通課程の訓練というのが最低1年、高等技術学校ではほぼ2年と長期にわたって行なわれる訓練なので、早く就職を望む離職者というのは、やはり2ヶ月や3ヶ月の短期の専修学校等に委託をして実施している訓練を利用することが多い。よって、そういったところの景気の影響というのは、そちらのほうに行っていると考えている。

もっぱら2年間訓練を受けて、しっかり腕を身につけて就職していこうという新卒者が本校の場合、約8割いるので、景気というよりは自らの能力を高めて社会に門戸を求めないと、なかなか競争に打ち勝てないという立場の人達、そういう人達が今、来ていて、この充足率になっていると分析している。

施設内の訓練は、将来、企業でマイスターのような、中核的な人物を企業から求められていて、そういった者をできるだけたくさん社会に送り出したいと思っている。一方で、ハンディキャップがあると、ある程度技能を身に付けないと社会に飛び出せないといったセーフティネット的な意味合いがある。両方見ながら訓練を続けており、そういう意味ではたくさん門戸を広げる、年齢制限の引き上げもおこなう。現在の入校生までは30歳未満だが、来春からは40歳未満ということで広げる。

門戸が広がるので、確実に入校生が増えると分析するが、今、申し上げたように8割が新卒者で、離職者の方は2割、まして、離職者の方は早くの就業を求めるので、一気にたくさん入校生が増えるということには必ずしもつながらないと。そういう可能性をみている。

それから、女性についても現在、約80名の在校生の中に2名しかいないという状況。求めている業種がものづくり。どちらかという、体力も必要、労働環境も決して恵まれている環境ではない事業所が多いので、女性の進出は比較的難しい分野の訓練。それでもやはり、そういった事業を求める女性が増えて欲しいという思いはある。積極的に対応していきたいとは思っているが、一気にこれも増えるということには、なかなかかなりづらいのではないかなと考えている。

ちなみに、今、申し上げた委託訓練で行なっている医療事務科であるとか経理科であるとか、比較的デスクワークの多い業種にかかる訓練を年間67コース、定員1090名規模で27年度はやっている。こちらの訓練を受講する訓練生の約8割が女性。両輪のように委託訓練と施設内訓練をあわせもって女性の社会進出はどんどん応援していきたいと、そのよ

うに考えている。

(委員)

平成 25 年の中途退校率、高知校が非常に多いが、理由は。

(事務局)

比較的、たくさんの方に入校をしていただいた年度だが、この時に実際にあった課題として、ミスマッチが相当あった。つまり、入校してみて自分が入った科の進路先についての知識を改めて知るような生徒が多く、思っていた内容と違うと感じた訓練生が多かった。これだったら私は別のところでキャリアを積んで好きな方向に行きたいというようなことを、その時点で本人が目覚めるということが多かったというふうに分析している。

26 年度入校生の選考に至っては、より本人との面接を通じて、どういう将来ビジョンを描いているのか。若い方々、なかなかそのへん、はっきりしない部分はあるが、少なくともサービス業に途中から行くというようなこと、中途退校ではよくあるが、ものづくりというものをよく知ったうえで入校していただけるように話をもつ時間をかなり重視したうえで選考した結果、26 年度の入校生が減っているのは、応募者も少し減っているが、よくよく、入校後のミスマッチで退校にならないようにという配慮をした結果。

(委員)

今、ミスマッチが非常に多くて、ミスマッチは生徒本人にとってもあまり良いことではないので、今のような取り組みは非常に大切。人数が少なくても目的を持つ、そういうことを、それはまさにキャリア教育ですから、そのあたりをきちっと、まず説明して入校いただくことのほうが退校率の低下にもつながる。

広報についておうかがいしたい。高校現場、中学現場、非常に忙しい。そして、進路を担当している先生方というのは、いくつもの仕事を重ねて持っているので、DVD を見て、理解をするということは難しいのではないかとというのがまず思われる。

DVD の稼働率というか、どれだけ本当に利用していただいているかということをしっかりそちらで把握なさっていらっしゃるのかどうか、そのあたりは大変問題ではないかと思う。例えば、1 個、2 個の評判を聞いたからといって、それで充足していると思うことが非常に危険であるというふうに私はちょっと感じた。

それから、今、理解をしていただくという部分でいくと、強みも弱みも一緒に教えてあげるといことなんです、強みについては、きちっとしたことの強みを教えてあげる。それから、弱みについてはということで、話をする時間があるのかどうか。本来だと、学校訪問みたいなのがちゃんとあって、高校の校長達は中学校に学校訪問している、そういうことが、そういう機会があるのかないのか、やっているのか。もしなければ、そういうことを是非していただいて、きちんとお話をすると、行くところがないと、本当に行きた

いんだけど何していいかわからないという子が、すごく今、増えている中で、中学生達がひょっとしたら行ってみてもいいかなと思えるようなことがあったとしたら、それを迎え入れる。もしくはインターンシップのようなかたちで少し迎え入れる、それから、オープンキャンパスのようなかたちで迎え入れる。そして、面白そうという思いをしてくれた人がいたら、それを少し広げていくというような方法があるんじゃないかと思うんですけども、広報については、どういうふうにかえ、どういうふうなことをしているのか。

(事務局)

現在、職業能力開発課長が、こういったパンフレットを持ちまして各高校、中学、まわっており、一生懸命学校について説明している。それから、進路の説明会の中でもコマをいただいている。しかしながら、現実に本校のコマを訪れる生徒というのは極めて少なく、DVD、実際にどれだけ見てくれているのかというのは見えない部分がある。

少なくとも、本校に進もうとある程度決めていただいた生徒さんには、気持ちをつかむ部分になるんじゃないかなという期待をしているところがある。

オープンキャンパスに来られる数も、せいぜい10人、20人といったレベルの数しか、今のところ来ていないので、これに加えて我々、さらに行なっているのが、各学校を訪れてのデモンストレーション。溶接は、見て、火花が散って、結構危ないんですけども、こうやって鉄がくつつくんだと、こういった仕事があるんだということは、出来上がったものしか見ていない生徒さんは非常にびっくりして興味を持っていただく。ちり取りをひとつでも作って学校に置いてくると、あれをやった学校、あったよねという話題になろうかということで、今のところ、東は安芸郡の近くまで、それから西は高幡くらいまでしか行ってませんけども、日帰りで機材を積んで、どちらかという、寮に入っていたかかないといけないようなところになるんですが、回らせていただいて、心をつかもう、理解を深めよう、こういう努力をしている。

一番大事なのは、やはり、その際に、今、来ているその学校の卒業生を連れて行くこと。俺のあとに続く、俺はこうしようと思っているんだよというのを見せるというのは、すごく子ども達に関心をもっていただけるということで、それから入校した訓練生も、母校から見られているということで、一生懸命やらなくちゃいけないという気持ちになる。

以上

(4) 諮問

- 事務局から審議会に対し、高等技術学校の訓練のあり方についての諮問書を手交。
- 事務局から諮問事項の趣旨、平成27年度の審議スケジュールについて説明。
- 質疑意見等

(特に委員からの意見等は無し)

(5) 小委員会委員の選出

- 小委員会委員長に吉野委員。小委員会委員に筒井委員、田鍋委員、西岡委員、泉井委員、西山委員が選出される。